

# きほく通信

第93号  
令和5年  
2月16日  
発行

難病  
患者家族会  
きほく

【会長】 神森和子  
紀の川市中三谷  
【相談室】 0736(75)4413  
【事務局】 〒649-6612 紀の川市北涌371  
森田方 0736(75)4413



## 1月あつちり

会長 神森和子

令和5年2月如月、皆さまには体調いかがでしょうか、お伺い申し上げます。

早いもので2月も後半に入りました。今年は1月下旬から全国的な大雪が押し寄せ、和歌山県でも雪国ほどの降雪がありました。雪に慣れていないためさぞかし難儀された方も居られたのではないのでしょうか。また寒さゆえ体調がさらに悪化された患者さんのお話もおうかがいしました。

国はコロナに関し、インフルエンザと同様の扱いにするとか、マスクの利用は自分で判断するように、今年に入り突然何もかも「ご自由！」とでも言わんばかりの対策対応の変更を促していますが、依然死亡者が多いなか、多くの難病患者が不安な状況にあることを理解していかないように思います。

このような現状ですが、皆さまには何とぞご自愛下さいますようお願い申し上げます。

## 国会請願署名とりまとめ

さて毎年『難病・長期慢性疾病・小児慢性特定疾患対策の総合的な推進を求める』請願署名の署名と募金ですが、今年も皆さまのご協力に感謝申し上げます。

また毎年ご協力いただいている日本精武会から、署名と募金を事務局に届けていただきました。

3年目もコロナ禍が続く、本会のみならず日本精武会における活動も制限されているようですが、今

年度からは通常の活動に戻していきたいとお話しました。

そんな現状のなか、少しでも難病患者への支援ができればと、会員のみなさんの方々に呼びかけを行っていただき、署名・募金活動に取り組んでいただきました。

今回も大西さん（写真左）と月森さん（写真右）が代表して持参くださいました。



「今年もこんな状況ですが、難病患者はなおさら大変だと思います。充分なお手伝いはできませんが少しでもお手伝いができればと皆さんにご協力いただきました。お役に立てればうれしいです」とお話ししてくれました。

なお、署名は156筆、募金は26,041円でした。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

署名は事務局集約分と合わせて上部団体と歌山県難病団体連絡協議会に送付させていただきました。国会請願活動が実施される状況になれば、通常国会終了前に県内選出衆参国會議員に提出させていただきます。

\*

なお署名の締切は2月末です。署名欄すべてを埋める必要はございません。

まだお手元に署名用紙がありましたら事務局まで返信いただければ幸いです。

事務局 森田良恒

## 紙粘土で可愛い干支ウサギ



会員のあつちゃん（神森敦子さん）から今年も紙粘土でつくった干支、可愛いウサギさんが送られてきました。あつちゃんは自己免疫疾患の難病をいくつもかかえた患者会会員です。絵が大好きで花も小鳥も動物も大好きです。毎年干支を紙粘土でつくって送ってくれます。今年も「両手を開いて元気いっぱい金の金太郎みたいなうさぎ」をつくってくれました。

添えられた手紙には、「優しくて大好きだった主治医が他院に替わられてあらたに女医さんが来られるそうです。新しく来る先生もいい人だといけれど…」と書かれていました。

また、寒波のあと患者さんが増えたそうです。とりわけ専門外来は患者さんが多く、先生も大変だとは思いますが、患者としては待ち時間も長くてつらいのですから、やはり丁寧で優しい診察を望みたいものです。

新しい女医先生、ほんとに良い先生だといいのね！

患者さんにとっては医師との相性も治療効果を左右するのです。どうかこのウサギさんのように大きな耳で聞いてくれ、両手で抱きしめてくれるように願いたいものです。

森田